

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「克己」のもと、専門コース設置校として、新たな時代に対応する確かな学力と、時代の変化に対応できる主体性や課題解決能力を持ち、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた心豊かな人物を育成する学校 1 新たな時代に対応する確かな学力や課題解決に活用することのできる思考力・判断力・表現力等を育む学校 2 「踏み出せ、一步」をスローガンに、将来にわたり目標や課題意識を持ち、自ら学び続けるとともに、主体的に行動できる人材を育成する学校 3 多様な価値観を尊重し、人間関係を構築できる、豊かな人間性、社会性を備えた人材を育成する学校

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化 (1)「わかる授業」をめざして授業改善に取り組む。 ア 主体的・対話的で深い学びによって、生徒の学習意欲を向上させ学習内容の定着を図る。 イ 観点別学習状況の評価を進めながら、計画・実践(指導)・評価・改善による検証を行い、指導と評価の一体化を進める。 ウ ICT 機器や1人1台端末の効果的な活用を進める。 ※学校教育自己診断(生徒)「『自分で考える力』が身についた」の肯定率 88%以上(R3 69%、R4 81.2%、R5 83.3%) 同「自分で物事を調べ、発表する機会がある」の肯定率 90%以上(R3 76%、R4 91.6%、R5 94.4%) (2)生徒の進路実現を支援する。 ア 3年間の進路指導方針・計画に基づき、生徒の希望に基づく進路指導および情報提供等を計画的に実施し、早期の進路意識の醸成に努める。 イ 進学講習や補習、勉強合宿、勉強会の充実を図る。 ウ 外部模試の計画的・積極的な受験を推進し、生徒が自分の目標と到達度を的確に理解する指導体制を作る。 ※4年制大学進学率 60%を維持する。 ※学校教育自己診断(生徒)「進路についての情報をよく知らせてくれる」の肯定率 88%以上(R3 75%、R4 80.6%、R5 80.6%) 2 将来を見据え自ら人生を自ら切り拓いていく態度を育成する取り組みの推進 (1)キャリアデザインについて考えさせる。 ア 「総合的な探究の時間」・「LHR」等を活用し、自分の人生・生き方を見つめ、将来の「キャリアデザイン」について考えさせる。 イ 「総合的な探究の時間」等を活用し、主体性や課題解決能力を育成する。 ※学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率 90%以上(R3 82%、R4 84.5%、R5 84.2%) (2)人権を尊重する意識・態度の育成と自己肯定感の醸成 ア 様々な分野の講師による講演等、計画的に人権教育を実施し豊かな心を育む教育を推進する。また、いじめを未然に防止し、早期に発見・解決するために、いじめに関する校内組織を中心に継続的・組織的に取り組む。 イ 学校行事・学年行事の企画・立案・運営に生徒が関わる機会を作り、達成感を感じられるよう取り組みを進める。 ※学校教育自己診断(生徒)「本校では、人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い」の肯定率 90%以上(R3 82%、R4 91.1%、R5 95.5%) 3 自主・自立の精神を養い、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた生徒の育成 (1)社会性の育成、規範意識・マナーの向上に取り組む。 ア 生徒の規範意識を高めるとともに、「薬物」、「情報リテラシー」等に関する正しい理解を深める。 (2)課外活動で地域社会と繋がり、多様な人と協働すること等により、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた生徒の育成に努める。 ア 入学時のクラブ紹介、体験入部等の企画を工夫し、部活動の充実に努める。 イ 生徒会活動や学校行事のさらなる活性化に継続して取り組み、生徒が主体的に運営する機会を増やす。 4 学校全体の課題解決に向けた取り組み (1)働き方改革の推進 ア 業務分担の見直し、グループウェア等を活用した校務運営の効率化、一斉退庁日の実施を徹底することにより、働き方改革を進める。 (2)広報活動と地域連携 ア 上記中期的目標1～3の積極的な情報発信に努めるとともに、創立 50 周年記念事業等により、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携を推進していく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 ・授業力の向上をめざし、授業見学月間の設定や研究授業、学習評価等に関する好事例の共有を行った。診断結果(教員)の「教材の精選や指導方法の工夫をしている」「教育活動に関して、日常的に話し合っている」の肯定率はそれぞれ 93.5%(昨年より+0.9%)、90.3%(同+31.0%)となった。また、診断結果(生徒)の「自分で物事を調べ、発表する機会がある」「生徒1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率はそれぞれ 94.8%(同+0.4%)、95.2%(同+6.0%)となった。授業研究委員会の取り組みが2年めを迎え、教員相互の授業見学や研究授業を行うこと等により、授業改善に向けた取り組みが進んだと考えられる。 ・協働的な学びの実践に向けて、「総合的な探究の時間」や各教科において取り組みを進めた。診断結果(生徒)の「発表する力が身に付いた」「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率はそれぞれ 86.6%(同+3.7%)、87.1%(同+2.9%)となった。引き続き、「総合的な探究	○ 第1回 令和6年6月14日(金) 【学習指導等】 ・授業研究委員会で実施の好事例の共有は是非継続していただきたい。 ・新設のスポーツ探究コースのカリキュラムに、パラスポーツなども組み入れるとよい。 【学校経営】 ・経営計画のポイントは外さず、スッキリしたものになっている。95%の教員がICTを活用できており評価できる。 ・一般的な話として、先生方同士で交流する時間がなかなか持てず、授業や様々な取り組みの方法などに悩んでいる先生もいると聞いたことがある。 「豊島ミーティング」のように時間を作って、先生方が学び合ったり、相談し

の時間」等において、自己探究を行うとともに、自身の将来や社会課題について探究する取組みを進めていく。 【生徒指導等】 ・生徒主体の学校行事等の取組みを進めるとともに、部活動活性化に向けた取組みを行った。診断結果の「学校行事」「部活動」に関する肯定率はそれぞれ生徒 89.2%(同+2.6%)、88.0%(同+8.1%)、保護者 93.4%(同+1.4%)、83.5%(同+2.9%)となった。部活動加入率についても、昨年に比べ上昇しており、取組みが進んだと考えられる。 ・人権教育については、計画的に行うとともに、事象が発生した際には組織的に対応し、生徒への指導を行った。診断結果(生徒)の「人権教育や命の大切さについて学習する機会が多い」の肯定率は 91.3%(同-4.2%)となり、目標を下回った。各取組みについては、昨年度と同様に実施していることから、実施時期等についても検討を行っていく。 【学校運営】 ・近隣中学校と連携した出前授業や部活動交流、中高連絡会を継続するとともに、次年度からの新コース設置に向け中学校訪問時の説明等について統一したものとなるよう工夫を行った。診断結果(教員)の「近隣中学校などとの校種間連携の機会を設け、教育活動全般に活かしている」の肯定率は 87.1%(同+31.5%)となった。 ・昨年度から学習支援連絡網を活用し、保護者向け連絡を週2回以上行うとともに、学校ホームページを定期的に更新した。診断結果(保護者)の「教育活動の情報について、学習支援連絡網やホームページ等で提供に努めている」の肯定率は 95.9%(同+12.3%)となり、取組みが進んでいると考えられる。	合う機会ができれば、働きやすい学校になるのではないか。 ○ 第2回 令和6年 11 月 11 日(月) 【授業見学を終えて】 ・授業のテンポや効率の良さが目立った、プロジェクターやタブレットの活用によって板書時間を削減し、授業内容を深めていた。 ・授業における教師の工夫が多く見られ、生徒が生き生きと授業に参加している様子が印象的だった。特に英語の授業でのゲーム形式や保健体育のライフプラン作成が生徒に将来を考えさせる良い機会になっている。生徒の主体性がより重視される授業スタイルが素晴らしい。 ・スライドをスクリーンに投影し、教壇を離れてリモコンでどンドンスライドを展開していく授業スタイルが、生徒との距離感を縮めるのに有効であった。 ・タブレットを活用する授業では、ゲームやクイズ形式が生徒の関心を引き出している。しかし、キーボードでの入力が不要な授業スタイルでは、英語のスペル習得や記憶の定着が弱くなる可能性があるため、紙媒体などの併用が必要。 ○ 第3回 令和7年2月 26 日(水) 【令和6年度学校教育自己診断】 ・コロナ禍で一時制限されていたクラブ活動が盛り返してきていることは喜ばしい。 ・福祉活動やボランティアに関する評価が保護者・教員ともに低いことは改善されたい。 ・「教育活動について教員が日常的に話し合っている」という項目が向上している点は評価する。 ・コロナ前に実施されていた地域のボランティア活動については大変良い取り組みであったため、再開を希望する。 ・2年生では担任以外の教員と関わる機会を増やす工夫がなされており、生徒が教員に相談しやすいと感じている要因となっている。このような実践を全学年に展開することを検討されたい。 令和6年度学校評価、令和7年度学校経営計画について承認された。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	(1)「わかる授業」をめざして授業改善に取り組む。	ア 研究授業や日常的な授業見学を実施し、授業改善に取り組む。 イ 教材や評価法の好事例を共有すること等により、観点別学習状況の評価方法について検証し、指導と評価の一体化をすすめる。	ア 研究授業や授業見学の実施 イ 学校教育自己診断(教職員)「教材の精選や指導方法の工夫をしている」肯定率の向上[92.6%] 学校教育自己診断(生徒)肯定率の向上「『自分で考える力』が身についた」[83.3%] 「学習評価(成績)は、テストの得点以外の部分(観点)からも評価されている」[87.8%]	ア 7回の研究授業、3回の授業見学期間の取組みを実施(◎) イ「教材の精選や指導方法の工夫をしている」は 93.5%で目標達成。(○) 「『自分で考える力』が身についた」は 81.2%にとどまった。(△)評価の低かった1年生の指導について検討を進める。 「学習評価(成績)は、テストの得点以外の部分(観点)からも評価されている」は 90.8%で目標達成。(○)
	(2)生徒の進路実現を支援する。	ウ ICT 機器や1人1台の端末の効果的な活用を進める。 ア 生徒の希望に合わせた進路指導および情報提供等を実施 イ 進学講習や補習、勉強合宿、土曜勉強会を充実 ウ 外部模試の計画的・積極的な受験を推進	ウ 同肯定率 「自分で物事を調べ、発表する機会がある」92%以上を維持[94.4%] 「授業では、コンピュータやプロジェクターを活用している」95%以上を維持[95.7%] 「本校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」肯定率 90%以上[89.2%] アイウ 4年制大学進学率 60%の維持[66. 9%] 学校教育自己診断(生徒)肯定率の向上「進路の情報をよく知らせてくれる」[80.6%] 「補習や講習が充実している」[78.9%] 進路別進学講習会の実施	ウ「自分で物事を調べ、発表する機会がある」は 94.8%で目標達成。(○) 「授業では、コンピュータやプロジェクターを活用している」は 94.7%にとどまった。(△)本結果は低下したが、下記の1人1台端末に関する評価と一体で捉える必要があると考える。 「生徒1人1台端末を効果的に活用している」は 95.2%で目標達成。(◎) アイウ 4年制大学進学率は 59.9%(△) 「進路の情報をよく知らせてくれる」は 85.9%で目標達成(◎) 「補習や講習が充実している」は 83.7%で目標達成。(◎) 進路別進学講習会を実施(○)

府立豊島高等学校

2 将来を見据え自ら人生を切り拓いていく態度を育成する取組みの推進	(1)キャリアデザインについて考えさせる。 (2)人権を尊重する意識・態度の育成と自己肯定感の醸成	ア 「総合的な探究の時間」・「LHR」等を活用した取組みの推進 イ 探究委員会が中心となり「総合的な探究の時間」の充実を図り、主体性や課題解決能力を育成 ア 計画的な人権教育の推進 いじめを未然に防止し、早期に発見・解決するために、いじめに関する校内組織を中心に継続的・組織的に取り組む。 生徒支援の充実 イ 学校行事・学年行事に主体的に参加できる取組みをすすめる。	ア 学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」肯定率の向上[84.2%] イ 「総合的な探究の時間」の計画的な運用と充実 探究発表会の実施 ア 学校教育自己診断(生徒)肯定率「人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い」肯定率 90%以上[95.5%] 同「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率の向上[83.8%] 教育相談委員会、支援委員会の開催	ア 「将来の進路や生き方について考える機会がある」は 87.1%で目標達成(○) イ 「総合的な探究の時間」の計画的な運用と充実を図り、探究発表会を3回実施(○) ア 「人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い」は 91.3%で目標達成。(○) 「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」は 85.5%で目標達成。(○) 定期的に教育相談委員会(月1回)、支援委員会(学期に1～2回)を開催し、情報共有・課題検討を行った。(○)
3 自主・自律の精神を養い、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた生徒の育成	(1)社会性の育成、規範意識・マナーの向上に取り組む。 (2)課外活動で地域社会と繋がり、多様な人と協働すること等により、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた生徒の育成に努める。	ア 規範意識を高めるとともに、基本的生活習慣を確立する。「薬物」、「情報リテラシー」等に関する指導に取り組む。 ア 入学時のクラブ紹介、体験入部等の企画を工夫し、部活動の充実に努める。 イ 生徒会活動や学校行事のさらなる活性化に継続して取り組み、生徒が主体的に運営する機会を増やす。	ア 学校教育自己診断(生徒)「学校生活について先生の指導には納得できる」肯定率の向上[67.5%] 同「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上[92.2%] ア 同肯定率の向上 「学校行事や生徒の活動が活発な学校である」[86.6%] 「クラブ活動が活発な学校である」[79.9%] イ 学校教育自己診断(保護者)肯定率の向上 「生徒指導の方針に共感できる」[74.2%] 「学校行事及びクラブ活動は活発に行われている」[86.3%]	ア 「学校生活について先生の指導には納得できる」は 67.0%にとどまった。(△)今年度、制服の着こなしについての指導を強化しており、ていねいな指導に努めていく。 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」は 90.1%で目標達成。(○) ア 「学校行事や生徒の活動が活発な学校である」は 89.2%で目標達成。(○) 「クラブ活動が活発な学校である」は 88.0%で目標達成(◎) イ 「生徒指導の方針に共感できる」は 74.6%で目標達成。(○) 「学校行事及びクラブ活動は活発に行われている」は 88.5%で目標達成。(○)
4 学校全体の課題解決に向けた取組み	(1)働き方改革の推進 (2)広報活動と地域連携	ア 業務分担の見直し、グループウェア等を活用した校務運営の効率化、学校部活動方針及び一斉退庁日の実施を徹底することにより、働き方改革をすすめる。 ア 積極的な情報発信 創立 50 周年記念事業等により、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携を推進していく。	ア 運営委員会や職員会議等 50 分以内 平均残業時間の削減[34 時間] ア 定期的な学校 HP のブログ更新 中高連絡会の実施 学校教育自己診断(保護者)「教育活動について、連絡ツールやホームページ等で情報提供している」肯定率の向上[83.6%] 50 周年記念事業実施に向けた計画的な取組み	ア 概ね 50 分以内で行うことができた。(○) 平均残業時間 34 時間 32 分(△) ア 定期的に更新を行った。(○) 中高連絡会を1回実施。(○) 「教育活動について、連絡ツールやホームページ等で情報提供している」は 95.9%で目標達成。(◎) 50 周年記念事業について計画的に実施できた。(○)